

神戸学院大学 第2次中期行動計画 中期計画(第3層) 2018年度達成度評価表 分野:大学運営

		評価	理由
中期目標	学長のリーダーシップの下で、効率的で機動的な大学運営を行います。		
中期計画	1 内部質保証システムの機能的有効性の促進	B	本学の自己点検・評価は、中期行動計画の年次達成度報告書でもって行うことになっている。これは第1次中期行動計画(2013-2017)より継続したものであるため、各学部・部署にも浸透している。しかしながら、第2次中期行動計画(2018-2022)では、内部質保証の基本方針と手続きの策定や全学内部質保証推進組織の整備等、本学の内部質保証システムについて早急に見直す局面にある。2020年度からは新体制で取り組めるよう、2019年度中に策定および整備することが望まれる。
	2 効率的な組織運営	B	各学部において教員組織の編制方針に基づき、昇格・採用等を実施しており、2019年度以降も継続した取り組みが望まれる。事務組織の見直しについては、新キャンパス(ポートアイランド第2キャンパス)の運用開始に伴い必要な人員を配置し、配置後も既存キャンパスも含め、継続的な見直しが必要である。
	3 効率的な財政運営	B	継続的な募金活動を提言したことは大いに評価できる。2022年度までの目標額到達には、他大学の方策から学び、附属中学校・高等学校を含む全学的な声かけを地道に行うことが必要である。また、健全なキャッシュフローを確保するための財政計画は、中長期計画を実行する上で大前提になるものであり、継続した見直しが見られる。
	4 戦略的広報活動の推進	B	大学ブランド・イメージ調査における本学認知率が上昇している等、広報部を中心に大学ブランド力向上のための取り組みの成果が上がっている。一方、学内外の関係者にはそれが実感されていない点、つまり発信力の弱さが2019年度以降の課題であり、情報の拡散と定着を図る方策が望まれる。入学・高大接続センターを中心とした、募集力強化のための募集広報については、継続した取り組みによる更なる成果を期待する。
	5 SDの推進	B	2018年度の実施計画の策定は、2017年度末に完了しており、2018年度の実施効果の検証については、2019年度始めに実施することとなったため、2018年度については計画が完了している。2019年度以降、実施効果の検証結果に基づいた実行計画を策定することが望まれる。
	6 男女共同参画の推進	B	男女共同参画推進に関するフォーラムや研修会をはじめとした様々な取り組みを実施しており、評価できる。2019年度以降も継続的に実施し、更なる成果が上がることを期待する。また、各学部においても、女性教員比率、女性上位職比率の向上に向けて、共通認識を持って取り組んでおり、評価できる。
	7 教育後援会・同窓会との連携推進	B	同窓会の活動を知ってもらうための手段として、SNS(Facebook)を活用し、こまめに情報発信を行っており、卒業生とのコミュニケーション強化が図れている。教育後援会との連携推進に関しては、大学見学会の満足度だけでなく、2019年度以降は、三役会や役員会の運営に対する満足度も調査し、要望を吸い上げる努力が必要である。

評価 S:目標よりはるかに上回る、A:目標をやや上回る、B:おおむね目標どおり、C:目標をやや下回る、D:目標をかなり下回る